

評価問題例

算数 およその数

わたしたちの身の回りで、がい数がどんなところで使われているか、例のようにかきましょう。

【例】

①西京極総合運動公園競技場の2009年J1リーグ第30節の入場者数

14852人 → 約15000人

②京都府の人口（平成21年11月1日現在）

2631925人 → 約2630000人

評価問題のポイント

☆概数の表し方には次の2つがある。

- ① ある位までの概数 ② 上から何桁の概数

概数を用いる場合、目的に応じて、適切に使い分けができるようにすることが重要であるが、4年生段階では、あまり厳密性は要求しなくてよい。

それよりも、自分がなぜその位までの数の概数にしたかを自分の言葉で説明できることを大切にしたい。また、概数で表されているものを身の回りから見付け、正確な数を調べたり、問題を作ったりすることにより、概数に対する理解を深めていくことが大切である。

身の回りの事象について概数で表すことが妥当であるかどうかを評価していくことがポイントである。